県内２箇所にて自転車通行環境整備のモデル地区事業に取り組みます

国土交通省と警察庁が合同で募集する、今後の自転車通行環境整備の模範となるモデル地区に、宮崎県内で２箇所が指定されました。今後、宮崎地区（宮崎市）、日向地区（日向市）の２地区においては、積極的な自転車通行環境の整備を実施します。

（別添、地区概要参照）

県内における自転車をとりまく環境

- 平成１９年の県内の自転車が関与する人身事故（速報値）は１，４４７件で、全事故の約１５％を占めており、過去３年間の比率はほぼ横ばい、件数はやや減少傾向である。
- しかし、過去１０年間における自転車の事故件数は約１．７倍に増加している。

（平成８年：９０２件→平成１８年：1，５７１件）

- 宮崎市においては、６０代の男性が自転車と衝突して死亡する事故も発生している。
- 自転車の無灯火や二人乗り等に対しては、交通違反警告カード（イエローカード）を交付するなど、指導取締りを強化している。
- 宮崎県内の国道において、自転車専用の自転車走行空間が確保されている道路は、約２．１km にすぎない。
- これまでに、大規模自転車道として、大淀川自転車道（Ｌ＝２５．６km）、一つ葉・西都原自転車道（Ｌ＝２２．８km）を整備済。

【問い合せ先】

国土交通省 九州地方整備局　宮崎河川国道事務所
技術副所長　岩山　順一　TEL：0985-24-8221(代)

国土交通省 九州地方整備局　延岡河川国道事務所
技術副所長　田中 秀之進　TEL：0982-31-1155(代)

宮崎県 県土整備部 道路保全課
主　幹　森脇　努　TEL：0985-26-7182

宮崎県警察本部　交通規制課
課長補佐　大野　正人　TEL：0985-31-0110(内 5172)

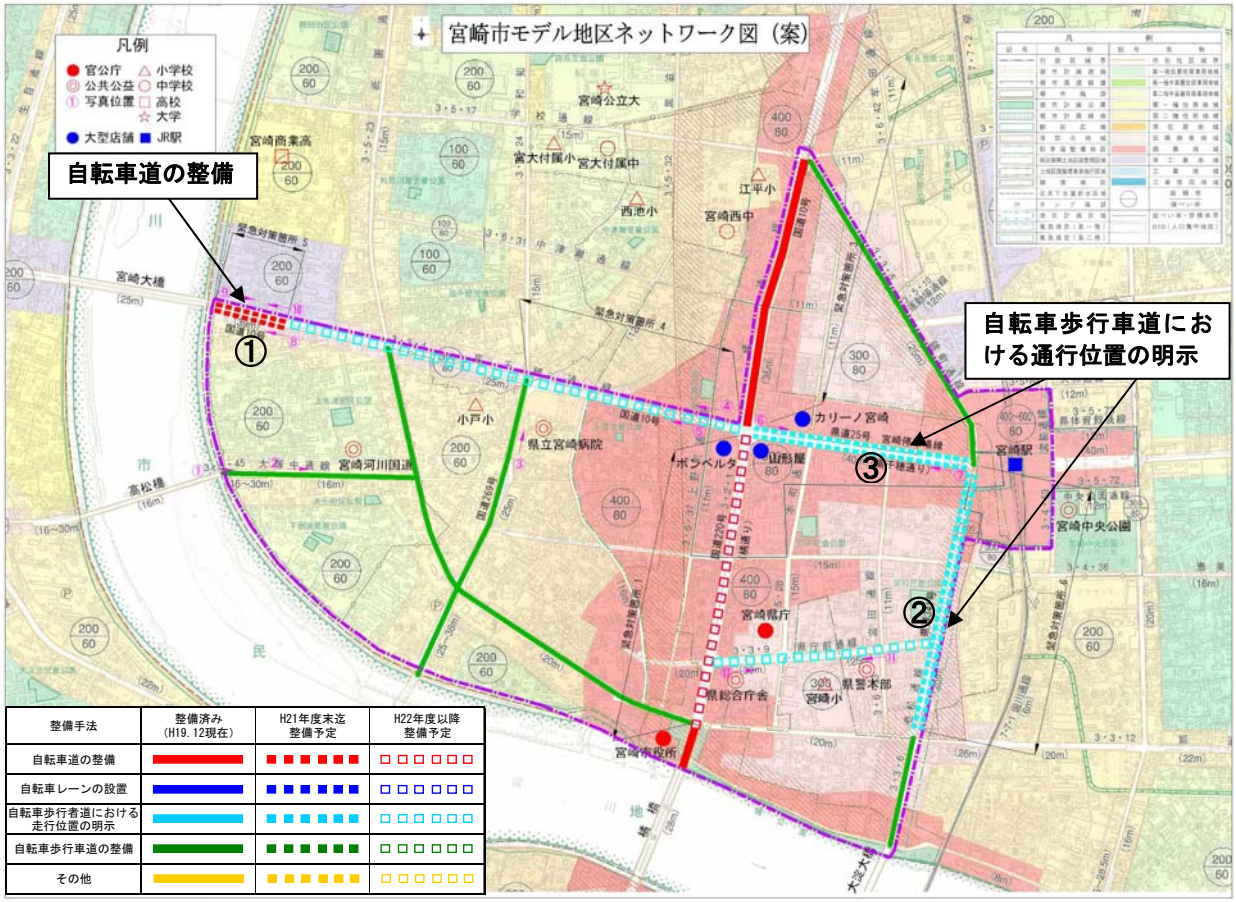
別添＜参考資料＞

九州管内における自転車通行環境に関するモデル地区箇所

宮崎地区における整備概要

●実施主体　国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県警察本部、宮崎県

●実施内容　自転車道の整備、規制標識の変更、自転車歩行車道における通行位置の明示、ルールの周知徹底と指導・取り締まりの強化



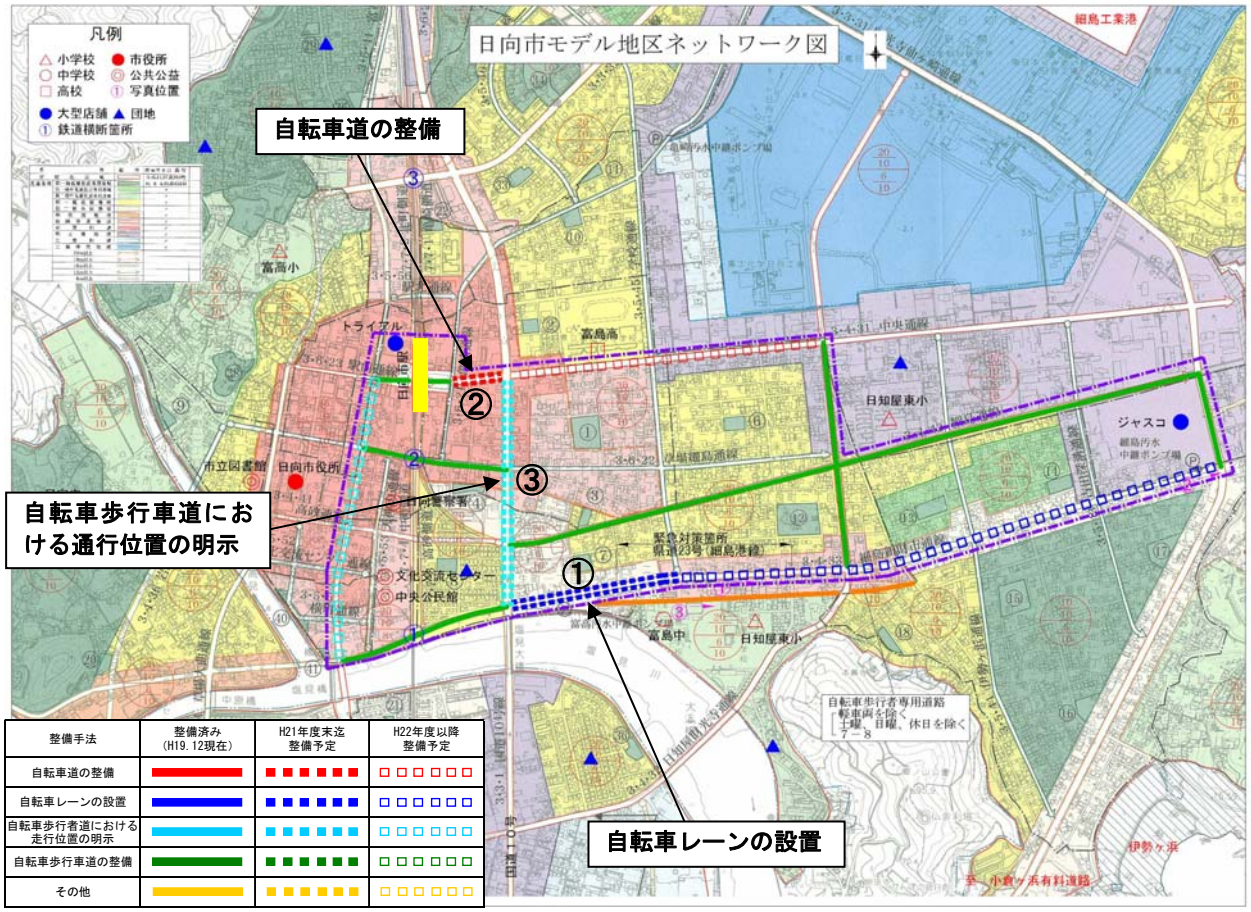
【施行前】路肩は広いものの、自動車の交通量が多いため、自転車は歩道を通行しています。しかし、歩道の幅員が狭く、占用物が多いなど、安全に通行するための空間が不足しているため、自転車、歩行者が輻輳しています。

【施行後（イメージ）】歩道を走る自転車がなくなるため、歩行者は歩道を安心・安全・快適に通行できます。また、自転車が安全に走行できる空間が確保されるため、自転車事故が減少します。

日向地区における整備概要

●実施主体　国土交通省延岡河川国道事務所、宮崎県警察本部、宮崎県、日向市

●実施内容　自転車レーンの設置、自転車道の整備、規制標識の変更、自転車歩行車道における通行位置の明示、ルールの周知徹底と指導・取り締まりの強化

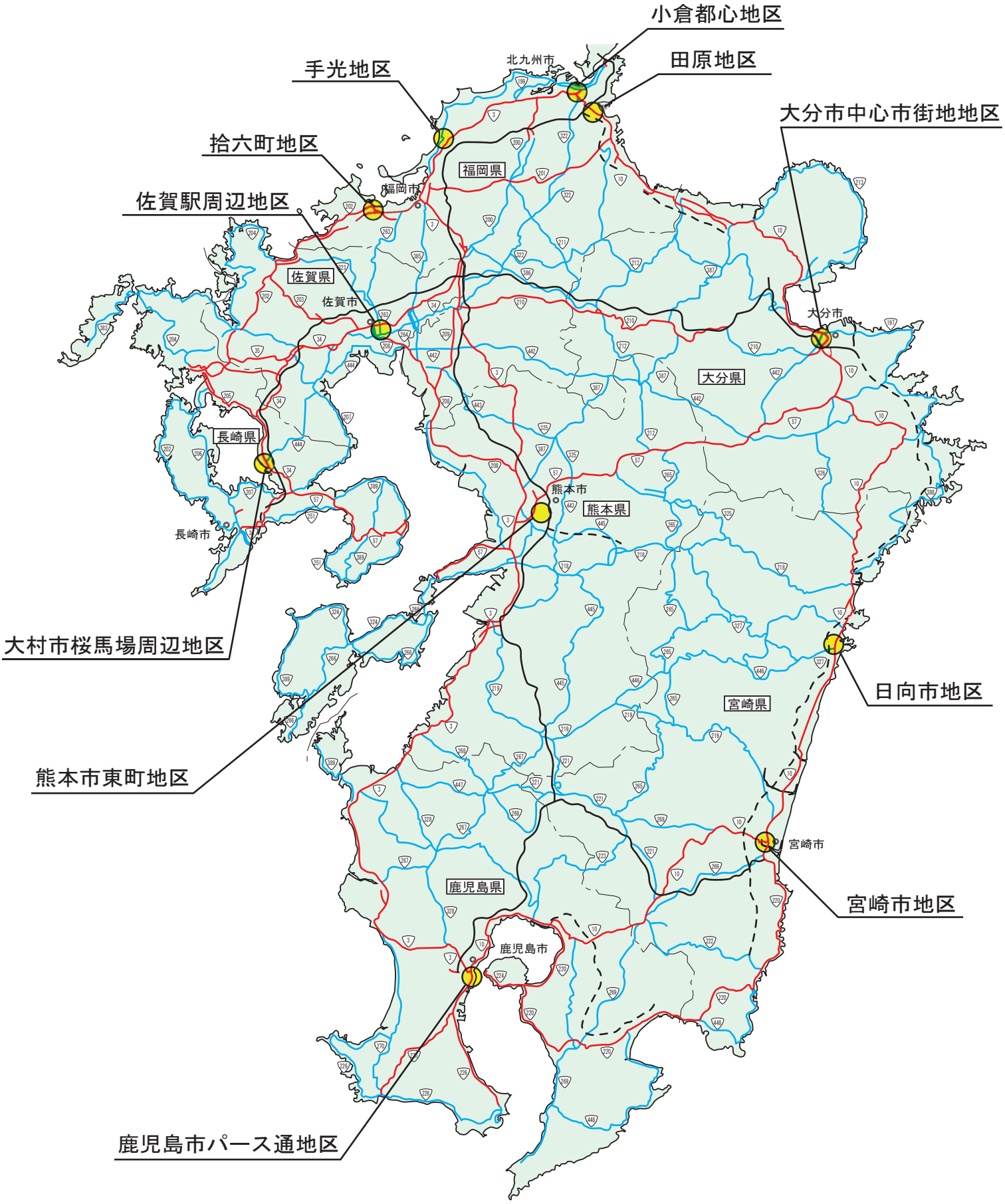


【施行前】通勤、通学時において、歩行者の交通量が多く、歩行者、自転車が安全に通行する幅員が不足しています。このため、歩行者と自転車が輻輳しています。

【施行後（イメージ）】歩道を走る自転車が無くなるため、歩行者は歩道を安心・安全・快適に通行できます。また、自転車が安全に走行できる空間が確保されるため、自転車事故が減少します。

（参考資料）

九州管内における自転車通行環境に関するモデル地区箇所



（参考資料）

九州管内における自転車通行環境に関するモデル地区箇所一覧

都道府県名	区市町村名	モデル地区名	事業主体
福岡県	福岡市	拾六町地区	福岡国道事務所、福岡市
福岡県	北九州市	田原地区	北九州国道事務所
福岡県	北九州市	小倉都心地区	北九州市
福岡県	福津市	手光地区	福岡県
佐賀県	佐賀市	佐賀駅周辺地区	佐賀県
長崎県	大村市	大村市桜馬場周辺地区	長崎河川国道事務所、長崎県、大村市
熊本県	熊本市	熊本市東町地区	熊本市
大分県	大分市	大分市中心市街地地区	大分県、大分市
宮崎県	宮崎市	宮崎市地区	宮崎河川国道事務所、宮崎県
宮崎県	日向市	日向市地区	延岡河川国道事務所、宮崎県、日向市
鹿児島県	鹿児島市	鹿児島市パース通地区	鹿児島市

※　警察の事業主体は、各都道府県警察本部にて対応。